

日本の食の安全特別コース

Progress 日本食の安全人材育成プログラムの現状と展望

2009年4月より発足した日本の食の安全特別プログラムが、2022年で13年目を迎えました。これまでコンソーシアム企業及び賛助会員企業の皆様には、学生のインターンシップ、専門教育の講義、学生の採用、奨学金及び賛助会費の寄附など様々な支援を頂いて参りました。ここに感謝申し上げます。

東南アジア、米国からの留学生は、いずれも成績優秀な学生さんですから、母国で就職活動すると容易に就職が決まる人が多いと思います。そんな彼らが、敢えて日本文化が好きだからと、本プログラムで勉強し、日本語能力も2年間で日本語能力試験(JPT)のN2レベルまで高め、日本で就職しています。食品関係企業のご協力や就職担当マネージャーの努力もあり、本プログラムの就職率は90%以上と高い就職率を維持しています。

留学生の母国と日本の就職事情を比較すると、母国では大学の勉学を全て修了してから就職活動が開始し、比較的希望する職種で最初から経験を積み上げることができる印象ですが、日本では就職活動は修了の1年前から始まり、入社後も幅広く経験を積むケースが多い印象です。留学生の個人的な特性としては、日本人以上にビジネスや投資、海外事業部(商社活動)に興味があり、農学研究科で築いた専門性の高い知識のみならず、起業家になり得る様な秘めた力を持っていたりします。また、母国・母校の同窓生たちとのネットワークからも様々な刺激を受けています。日本人にない個性を持つが故に、今後の活躍が益々楽しみです。

一方で、この2年間、コロナ禍にあり、香川大学と海外大学との交流が対面では行えず、多数の学生に本プログラムを紹介する機会に恵まれず、優秀な留学生の確保には苦戦をしてみました。今後は、日本人学生にも海外ビジネスの魅力を伝え、日本人に足りないビジネスマインドの涵養も含め、グローバルな人材を育てていきたいと願っております。
(田村教授)

Topics 新入生と留学生の交流イベント「農学部フォトラリー」

5月18日(水)農学部で、新入生と留学生との集いとして「農学部フォトラリー」を開催しました。コロナ禍であっても、新入生と留学生の交流を深め、学生の異文化理解を高め、国際感覚の養成などを図ることを目的として開催しています。留学生と新入生とのグループを作り、指定された場所の写真を撮りながらキャンパス内を巡りました。

新入生56名と留学生17名(内5名が、日本の食の安全の留学生)が参加しました。日本の食の安全の留学生たちは、イベントへの参加募集の段階から積極的に関わり、留学生の勧誘などの声かけを行ってくれ、ボランティア精神が旺盛で、大変助かりました。

新入生は、留学生と英語で相談しながらチェックポイントを探したり、普段立ち入ることのない学部長室で学部長と記念撮影をしたり、クラス担任の研究室を訪問したり、普段の授業とは異なる活動を楽しんでいました。フォトラリーでの使用言語は英語でしたが、日本の食の安全の留学生たちは、日本語も英語も使いこなせるので、臨機応変に両方を駆使して、リーダー的存在でチームを引率していました。言語能力が高く、相手の状況を理解したうえで行動できる真のコミュニケーション能力の高い留学生たちであることを再認識させられました。

実施後の新入生アンケートでは、参加者の77%が大変満足したとの回答があり、留学生との交流ができたことの喜びなどの記載もあり、かなりの高評価でした。併せて参加してくれた留学生にも同様のアンケートを実施しましたが、93%が大変満足したと回答してくれ、双方にとって大変満足度の高いイベントとなりました。
(川村教授)



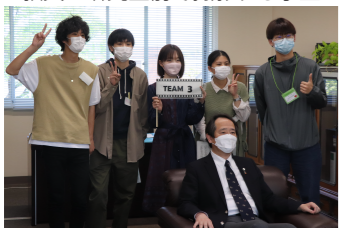
イベントの説明をするルーツ准教授



チェックポイントで撮影する学生



教員の研究室前で撮影する学生



学部長と一緒に撮影する様子

News 海外の大学で日本人学生の研修を再開

香川大学農学部及び大学院農学研究科の日本人学生12名が、令和4年8月25日から同年9月28日までの35日間ベトナムのハノイ工科大学生物工学・食品工学部の研究室で研修を受けます。この研修は、日本学生支援機構(JASSO)の短期派遣プログラムに採択(課題名:グローバル化に対応した食農スペシャリスト養成を受けて実施するもの)で、参加学生は給付型の奨学金の支援を受けて渡航します。海外大学への日本人学生の短期派遣は毎年行っていました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症のまん延により出入国が制限されていたため中止を余儀なくされていましたが、今年度は出入国の制限緩和により再開することになりました。

ハノイ工科大学はベトナムで最初に設立された理系総合大学であり、理系では入学が最も難しいとされる名門大学です。日本人学生は、同大学で現地の学生と一緒に食品や農業に関連する授業を英語で受けるとともに、研究室に滞在しベトナム人学生と交流します。また、本研修には本学の教員が帯同し、ハノイ工科大学で授業を行うとともに、本学学生の安全確保に努めます。本学学生との交流を通じて、優秀なベトナム人学生が日本の食の安全プログラムに入学してくれることが期待されます。
(小川教授)



ベトナムのハノイ工科大学

※写真は過去に交流した際のもの

Review 日本の食の安全特別コース第5期生より

こんにちは。5期生の劉青松です。

現在、日系商社の上海にある子会社で化学品原料に関する貿易業務を務めております。日本の食の安全コースを修了して、日本の食品会社で開発職にチャレンジしましたが、2018年に中国に帰国し、商社での仕事をやってみたいと思い、この道を選択しました。商社での仕事は語学力だけではなく、専門知識やコミュニケーション力、また、異国ビジネス文化の理解も必要で現在の業務の成功に繋がっております。皆さんは日本にいますので、日本語はマスターできると思いますが、英語の勉強も忘れないように。今は沢山の悩みがあるかもしれませんが、留学の体験は人生の宝物とも言え、振り返ると一番美しい時期だと思える時が絶対に訪れます。是非しっかり味わってください。

5期生 劉青松 (中国)



日本の食の安全特別コース5期生のナークチューです。私が入学した経緯は、タイでの大学院在学時に夢や、やりたい事が特に無く、もし留学したら自分の世界が広がるのではないかと思ひ、入学試験を受けたことがきっかけです。実際に入学してみると日本語や専門分野など分からない事だらけで大変でした。そんな分からない事だらけの私でしたが、先生や先輩は優しく分かりやすく教えて下さいました。このコースに入ってから様々な日本語・食の文化・ビジネス等を習得しました。そのおかげで、自分の人生観が変わって、やりがいのある仕事に出会えて良かったと思ひます。また、私も社会に貢献できているのだと自信が持て、明日も頑張ろうと思ひます。後輩の皆様も一緒に頑張りましょう。いつでも応援しています。

5期生 ナークチュー トリンナチャック (タイ)

